

南総里見号

で行く バスの旅

ご乗車ありがとうございます。

お乗りの「南総里見号 館山駅」行は、JR京葉線千葉みなと駅東口を始発に、JR千葉駅、蘇我駅を経由し、松が丘インターから館山道に乗り、木更津羽鳥野、富津浅間、富楽里のバス停に止まり、館山駅を終点とする片道約2時間の旅です。

また、「安房白浜駅」行は、その先の九重駅、千倉駅を経由して、海辺の安房白浜駅を終点とする片道約2時間40分の旅となります。

古代の区分では、下総国千葉郷を出たバスは、上総国を経由し、安房国白浜駅を終点とします。

房総半島の名前は、安房国の「房」と総の国の「総」からつけられました。市原を過ぎた辺りから緑が濃くなり、標高の高い山はありませんが、九十九谷と呼ばれるたおやかな山々の連なりは、四季それぞれに味わい深いものです。また、千倉駅を過ぎて現れる太平洋をのぞむ海岸は、大地震による隆起の岩も荒々しく、ダイナミックな地球の活動に目を見張ることでしょう。古代より開けた館山市、南房総市は、由緒ある神社仏閣や戦国大名里見氏の史跡も多く、自然の恵み豊かなこの地域を「南総里見号」に乗り、お楽しみ下さい。



上

総

国

安

房

国

曲亭馬琴(1767~1848) 作家
代表作「南総里見八犬伝」は、28年をかけ全98巻。晩年には失明するも、口述筆記で完結。安房里見家との因縁に結ばれた八犬士を主人公とする伝奇小説。

安房 里見氏
15世紀中頃、里見義実が安房白浜城を築き、上総、下総に進出し戦国大名へと成長する。関東の雄、北条氏と国府台にて二度の激戦を繰りひろげ、関ヶ原の戦いでは東軍として参加後、9代忠義が1614年大久保忠隣に敗れて連座し、伯耆(島根県)に流され、死去。ここに戦国大名 安房里見氏は終焉する。

富山 342m
「南総里見八犬伝」の舞台となった山。伏姫と八房が住んでいたと云われる洞穴があります。

崖観音
現在の御堂は、大正14年に建立。船形山の中腹にあり、一見の価値あり。

那古寺
観音堂は、1758年再建。銅造千手観音立像は、国の重要文化財。

館山城
天正8年(1580)築城。現在の天守は、再建され、館山市立博物館として利用。

野島崎灯台
明治2年(1869)建設。関東大震災により倒壊し、大正14年(1925)再建。「白鳥の灯台」とも呼ばれる。

杖珠院
南総里見八犬伝のモデルとなった「里見氏」の菩提寺。里見氏初代「里見義実」の墓があり、寺内。

信

仁

義

礼

智